

第17回富士山世界遺産セミナー

富士山の用水が築いた 発展の礎

— 溶岩が連なる乾いた地を潤す知恵と
土木技術の特徴 —

日時 令和8年 **11月7日** **土** 13:30～16:10 (受付 13:00～)

定員 **150名** (事前申込制・先着順)

受講料 **無料**

会場 **コミュニティながいずみ
3階ホール** (駿東郡長泉町下土狩1283-11)

アクセス JR御殿場線「下土狩駅」より徒歩1分
駐車スペースに限りがあります。
公共交通機関にてお越しください。

基調講演



「世界かんがい施設遺産」とは

渡邊紹裕 京都大学名誉教授
国際かんがい排水委員会 (ICID) 名誉副会長・日本国内委員会委員長

話題提供

高田泰久

(一社)本宿共有財産管理会 理事長

田口建一

(裾野市文化財保護審議会 委員長)

高橋菜月

(富士宮市教育委員会文化課 学芸員)

小林 淳

(静岡県富士山世界遺産センター 教授)

お申込方法

静岡県富士山世界遺産センターホームページ内の
「イベント」のページからお申し込みください。

※電話 (0544-21-3776) でのお問い合わせは9:00～17:00に
お願い致します。(10月20日は休館日のため電話対応ができません。)

お申込期間 令和8年

9月16日 から **11月4日** まで

<https://mtfuji-whc.jp/> >>>



長泉全景 / 鮎壺の滝と本宿用水取水口

共催



静岡県富士山世界遺産センター / 長泉町

富士山の用水が築いた発展の礎

— 溶岩が連なる乾いた地を潤す知恵と土木技術の特徴 —

富士山は「水の山」と称され、豊かな恵みをもたらす象徴として親しまれてきました。しかし、その実態として湧水の恩恵を直接享受できるのは、山麓のごく一部に過ぎません。広大な土地の大部分は、降雨が瞬時に地下へと浸透してしまう溶岩や火山礫に覆われた乾燥地帯であり、古来、この地に生きる人々にとって水の確保は死活問題でした。こうした背景の中、建設から100年以上経過し、歴史的・技術的・社会的な価値を持つかんがい施設を登録する「世界かんがい施設遺産」という制度が注目されています。

静岡県内では現在6施設が登録されており、その一つである長泉町の「本宿用水」は、1603年の供用開始から400年を超えた今もなお、地域を潤し続けています。本セミナーでは、富士山麓の隅々まで水を引こうとした歴史的背景と、先人たちの情熱と築造技術、そして用水路が切り拓いた地域の発展について、各地の事例から紐解いていきます。

プログラム

13:30～13:35 開会のあいさつ

13:35～14:20 基調講演

「世界かんがい施設遺産」とは

渡邊紹裕

京都大学名誉教授

国際かんがい排水委員会 (ICID) 名誉副会長・日本国内委員会委員長

国際かんがい排水委員会 (ICID) は、歴史的な灌漑施設を「世界かんがい施設遺産」として認定しています。日本では、2024年までに、56施設と世界的にも多くの施設が登録されています。日本の灌漑施設は、用水を利用する農家で組織する土地改良区が、国や地方自治体からの支援を受けながら、中心的な役割を担って施設を建設・維持管理するという仕組みが特徴です。これは「農民参加型灌漑管理」の代表例とされています。



通潤用水円筒分水工 (熊本県) ▲

14:20～14:30 休憩

14:30～15:50 話題提供

本宿用水 — 当時の最先端技術が結集した「日本水理の礎」

高田泰久 ((一社)本宿共有財産管理会 理事長)

世界かんがい施設遺産に登録された「本宿用水」は、その歴史的価値を後世に残すために、関係機関とも連携して数々のイベントを開催するとともに、ホームページやSNSを活用して全国に発信しています。命の水を引いた本宿用水は、420年余りに渡って本宿の人たちで守り、農業用水のみならず防火用水や生活用水として活用してきました。「本宿用水どろんご祭り」は、本宿用水の歴史的価値を子供たちに伝承するために毎年盛大に開催しています。

本宿用水どろんご祭り▶



境川河川争奪と深良用水

田口建一 (裾野市文化財保護審議会 委員長)

今まで郷土史的側面でしか語られなかった「深良用水」を、土木史の視点から「全国に誇れる文化財である」と発信し、裾野市民の郷土愛を向上させたいと、小学校での出前授業や歴史講座などの活動をしています。また、定期的に「プラタグチ」という街歩きを主催し、溶岩流の上に立つ裾野市の特徴などを解説しています。生まれ育った裾野市富沢には、不動湧水という湧水マニアの間では有名な場所があります。

◀深良隧道結合点

富士山からつながる水の道 — 北山用水の高度な水理技術と歴史的意義

高橋菜月 (富士宮市教育委員会文化課 学芸員)

就職をきっかけに富士山の御膝元、富士宮市へ。

大学時代は神社の組織の研究をしており、その延長で現在は中世以降の浅間大社・村山浅間神社について、組織や富士登山のシステム、地域支配などの研究をしています。また、業務で北山用水、湧玉池、白糸ノ滝に関わったことをきっかけに、富士山の水を利用した製紙業・発電業・養鱈業の歴史へも興味が広がりました。

北山用水絵図▶



インドネシア・バリ島の伝統的水理組織 (スバック)

小林 淳 (静岡県富士山世界遺産センター 教授)

富士山の噴火史をその地形と地質から明かし、富士山麓の火山防災に役立てるのが本務。

一方で、富士山麓の湧水の豊富さ綺麗さに驚いたのが富士山の水の特徴とその特徴が何を意味するかを研究するようになったきっかけ。旅行に行く先々で湧き水を見つけて、温度や成分を計測しながら、その地下水の道のりを分析するのが最近のスタイル。

◀Jatiluwih Rice Terrace (インドネシア)

15:50～16:05

質疑応答

16:05～16:10

閉会のあいさつ

16:10

閉会